

# 令和元年 12月鷹栖町定例議会

質問方法： 一問一答方式 制限時間 45分  
尚、言葉尻・表現等一部校正箇所があります。

## 質問事項： 子育て支援（保育園）の課題について

### 青野 敏

少子化対策の取組みとして政府では、「子ども・子育て応援プラン」に基づき様々な角度から子育て支援対策を推進しているところです。

しかしながら、従来の対策では中々少子化の流れを変えることには繋がっていないのが現状であります。

今回消費税の引上げに伴い幼児教育・保育料の無償化を行うことで、幼児教育の重要性や子育て世代の負担軽減を図り少子化対策にもつながる思惑の中で取り組まれております。

本町においても、少子化対策・子育て世代への支援として「次世代育成支援行動計画」「子ども・子育て支援事業計画」を策定し、家庭・地域・行政が協力をして子供たちを守り育てることを目的に様々な取組みが行われております。

また、就学前子供の食材料費を助成することにより子育て世代を支援し、子育て環境の充実を図る目的で実施をされております。

子供を安心して産み育てる環境の支援策をさらに拡充をしていく観点から、保育園の課題について質問致します。

一人一人の子供が健やかに成長することを目的に、質の高い教育・保育が受けられることを目指して、保育園においては最善の環境を整えて、子供たちをお預かりしているところであります。

しかしながら最近、より良い保育環境を整えるための保育士の人材、園児の定員を増やしたいけれども人手が確保できないなど、人手不足が深刻で保育士を確保できないでいる保育施設があることも報道されております。

本町の保育体制と時間外労働等の課題及び保育士の待遇面などの環境について、町長にお伺いをいたします。

### 谷町長

それでは保育士の環境についての御質問にお答えいたします。

本町の保育園につきましては、鷹栖・北野両園合わせて130名を超える園児が在園しており、鷹栖保育園では0歳児から5歳児までの6クラス 68名。

北野保育園では、1歳児から5歳児までの5クラス 66名となっております。

職員の業務内容については、正職員はクラス担任の通常保育・指導計画立案に加え、各種研修の実施及び参加、保育指導・各関係機関との連絡調整、情報伝達などを中心となって担い保育園職員の中核となっております。

近年保育現場での課題となっている困り感のある子供への対応方法なども、今年から発達支援に関する勉強会を正職員が中心となって企画実施しており、当該関係機関への会議等にも参画しています。

嘱託職員等はクラスの担任・副担任などの通常保育のほか、指導計画を立てる仕事をしていただく場合もあり時間外勤務を行うこともあります。

また代替保育士・保育園助手の方は、それらの職員の補佐として業務を担っていただいております。

現在保育士の人材不足が深刻な状況であり本町も例外ではありませんが、正職員の採用等は今後の園児数の推移や町職員全体の職員数なども含め慎重な対応が必要です。

全国的に厳しい状況の中ではありますが、子供を預かり安全に保育を行う上では正職員・嘱託職員・

臨時職員、全ての職員が働きやすい職場環境づくりに向けた取組みが引き続き重要です。

新年度から始まります会計年度任用職員制度も含めた中で、待遇の改善を現在検討しておりますので御理解をお願い致します。

## 青野敏

町長からそれぞれ職員の配置の関係も含めて御答弁をいただきました。

鷹栖保育園 6 クラス、北野保育園 5 クラス、正職員 7 名・嘱託職員 15 名、臨時職員の方は代替職員・援助員も含めて 32 名の配置という事で伺っております。

子供たちをしっかりと預かる認識の中、働き方改革も含めて職員の方々が様々な特性を持った子供たちを預かる体制において、正職員 7 名・嘱託 15 名・臨時職員などの体制で保育園 2 カ所の体制としては十分だということと考えておられるのかどうか。

そのことを先にお伺いをします。

## 谷町長

これらについては、現在の園児数を考えますと適当な数字ではないかというふうに考えております。

青野議員には 9 月の定例会のときにも御質問を受けそのときもお答えをしましたがけれども、担任・副担任については正職員・嘱託職員の職員を充てて、子供たちの情緒をしっかりと守れるような体制を取っているというような状況でお話をさせてもらっていましたがけれども、現場を見ながら今の体制で十分だというふうに考えております。

ただし 0 歳児保育の問題がございまして、0 歳児保育は子供 3 名に対して 1 名の保育士の資格を持った者を充てなければならないという環境もございまして、その部分については年度毎の人数によって嘱託職員などの数も変えていかなくてはならないというような現場状況もございまして、現在の状況では十分にあるというふうに考えてございましてけれども、今後の園児数によってはそれに合わせた対応も必要かというふうに考えてございます。

## 青野敏

町長の認識では、正職員と嘱託職員の方が担任・副担任をしっかりと持っておられるという話ですね。

町長も先程任用制度における待遇の話をされましたけれども、現実的に担任・副担任を正職員・嘱託職員、更に臨時職員も職務がほとんど変わらない仕事ですよ。

其々の処遇によって、与えられた職務が変わるということでは実際ないですね。

ですから私が言っているのは、先ほどから話している様に正職員・嘱託職員の方々は保育士の免許を持っておられるから、その面については安心だというふうな町長は認識だと思うのですが、そういう中において担任・副担任という役割があると思います。

業務は変わらないですし責任分野も含めながら、今働いている職員の方々が子供たちを本当に預かるという責任感の中で行っている、この業務の中で処遇ですとか待遇が違って子供を預かるその感覚は一切変わらないのが現状です。

先ほど、町長は職員の採用はしているお話されましたけれども、正職員は平成 29 年から採用者は一人もおりません。

ですから現在の正職員 7 名は 3 年間変わっておりません。

募集も恐らくないのだと思います。

嘱託職員の方はそれぞれ募集をされて、毎年 1・2 人は足りない人数を補充され臨時職員の方も同じ様にその体制に合わせて職員を採用されている。

私は鷹栖町の行政として子供たちを預かる施設を持っている中で、やはり職員体制がちょっと脆弱ではないのかと思っております。

だからとして、嘱託職員の方が責任ある役割を果たせて居ないという事ではなく、責任感を持ちながらしっかりと役割を担っているわけですから、処遇ですとか待遇もしっかり考えていただかなくてはならないのだと私は思っております。

ですから町長が考えているように、正職員は今いる人数と嘱託職員がいるから鷹栖町の保育園は大丈夫ですという言い方はちょっと私との認識が違います。

先程町長が保育園職員の配置基準については話されましたが、私は基本的にこの人数を町長が言うのだとすれば、これは間違いだと思っております。

これは国の決まりとして、0歳児は3人に1人、1歳児は6人に1人、2歳児も6人に1人。

3歳児は20人に1人、4歳児は30人に1人、6歳児も30人に1人いれば良いので、町長が先ほど言ったのが国の基準に沿っているから、鷹栖町保育園の職員体制はしっかり取れているのですよって私は聞こえたのですけれどもどうでしょうか。

## 谷町長

嘱託職員・正職員の話をもっと詳しく話したいけれども、今後の園児数の推移や町職員全体の職員数のバランス等も考えて正職員の配置をしている考え方でございます。

それ以上のことは残念ながらお答えのしようがありません。

それと、国の基準の関係ですけれども、ちょっと言葉が足りなかったかもしれないですね。

基準の職員数、保育士の資格を持った方も含めてということでお話もしましたけれども、困り感のあるお子様がいらっしゃるには、職員を手厚く配置して保育を行っている実情もでございます。

それから、前にもお話ししましたがもしもお昼寝時間ですとか、うつ伏せをして窒息されて亡くなられる痛ましい事故が数年に一回ぐらい全国でございますけれども、そのために職員を配置して事故が起こらないように臨時職員を配置して安全を守る、そういうようなことでもしてございますので、この人数は、臨時さんが30何名いらっしゃいますので、ケースバイケースによって子供たちを安全に心豊かに育てる、そういうような環境づくりに保育園では努めているところでございます。

## 青野敏

先程の話として事故がないようにするのは、これは当たり前のお話であります。

子供たちを安全に預かるというのは、職員もそのことを第一に考えていると思います。

私も、鷹栖保育園・北野保育園を何度か見せていただき、子供たち預かっている状況や楽しく遊んでいる姿も確認をさせていただきましたが、先生たちは一時も目を離すことなく、ここに3人、そちらにいる1人ずつの子供たちを必ず見守っている事も拝見しております。

更に、その中で困り感やいろんな特性を持った子供が増えているのだと思うのですが、そういう子供たちを見守る援助員や臨時職員も多く配置されています。

ですから配置の人数が何人にいるから大丈夫ですということではないのでしょうかけれども、そのときそのときのケースバイケースがあるのだと思います。

それと、お昼寝の時間であろうが、食事を取っている時間であろうが、必ず一時も目を離さない状況の中で職員は勤務されています。

この様な言い方では失礼かもしれませんが、役場庁舎内では12時～13時まで電気を消して休憩を取れます。

保育園では職員が机に向かっているのは連絡帳等の書き物している時しかないのが現状であり、ほとんど現場のほうに出ていますので、昼休み時間も1時間取っている先生はいらっしゃらないと思います。

食事を取るのも物を食べながら子供たちを見守っている状況だと思います。

ですからこの現状で、町長がおっしゃっている配置を適正にされているという考えと、現場で働いている職員が本当に子供たちを守るために真剣に業務を行っているというところに乖離が私あると思います。

その辺も含めて、担当課ではこの後に提案される任用制度の条例改正で出てきますから、待遇ですとか処遇ですとかを改善しますよと言っても、現状で嘱託職員の人が良くなるとは私は思っておりません。

先生たちはそのモチベーションをどこに持っていくか、子供たちを預かっている責任感しかありませんし、子供たちが好きだから子供たちの笑顔を守りたい。

そんなことも含めながら勤めている先生たちのその待遇を行政でしっかりと見ていただきたい。

私もちょっと行ってきましたが、一日一緒に子供たちを預かりに行ってきませんか、どれほど大変か分かると思うのですが。

町長の考え方では、待遇を良くすれば子供たちを預かれる？ そうでもない、やっぱり環境ですね。働くための環境、それが取れているかということですよ。

私が見た中では取れていない。

その現実を行政にもしっかりと分かっていたいただきたいということです。

どうでしょう。

### 谷町長

待遇の改善というお話もさせていただきましたけれども、これは会計年度任用職員制度のことも含みますけれども、保育園の嘱託職員・臨時職員についての待遇、これについては給与についても嘱託職員のほうは改善をしようということで現在考えております。

それで嘱託職員の募集とかもございまして、4月に向け早く募集をしたいという考え方も持っていますので、そういうような打合せを現在させてもらっているところです。

給与の改善というのは、保育園の嘱託職員・保育士・栄養士・保健師・看護師それらについては、給与の待遇も考えているところでございます。

そのことによって、働く環境が良くなってまた新たな方が来ていただいて、保育環境が良くなることを望んでいるところです。

### 青野敏

待遇ですとか処遇のことについては、新たな募集の段階で考えていただけるというお話もいただきました。

そのことは、これは約束事ではないですからお願いしたいと思うのですね。

ただ、それともう一点は待遇・処遇も大事ですが環境ですよ、環境。

それも見ていただきたい。

休み時間で休めているのか。

時間外労働がないのか。

職員の時間外でのサービス残業みたいなことがないように配置がされているのか。

今、職員の配置を見ましたら7時30分から18時30分迄の預かり時間で職員の出勤と上がり時間も決めています。

親御さんの都合によっては朝早めに連れてきたり、晩は親御さんの迎えが遅くなったりですとか、環境をしっかり見ていただいた中で待遇・処遇と環境も考えていただきたいと思っておりますけれども、どうでしょうか。

### 谷町長

青野議員のおっしゃることは分かりますし、現在も臨時職員・パート職員の方を入れて短時間労働でフォローしていただいて、そういうことをしながらなるべく良い環境の中で、子供たちを預かれる、そういうような環境づくりに努めております。

### 青野敏

これは堂々巡りになるかもしれませんが、子供たちを預かる環境を整えるためには、やっぱり職員が本当に心を穏やかに、子供たちを大事に預かるという気持ちになれるような職場環境を早々をお願い致します。

先ほど待遇ですとか処遇については、新年度の任用職員制度の中でという話ありましたけれども、環境はすぐにでも変えれと思います。

是非お願いをしたいと思っておりますので、お約束をしていただけますか。

## 谷町長

実際のところ本当に何もやっていないわけではないです。

担当課長も含めて保育園長も非常に努力をさせていただいておりますし、その足りない部分も何とか短時間労働でもいいですから来ていただいて、職場環境を良くしようという努力をさせていただいているのですけれども、どうしても人手が少ないという部分もありますのでこれからも継続して努力することをお約束します。

## 青野敏

努力をしてないと言いません。

努力はしているのでしょうけれども実になっていないのだと思うのです。

それは、先ほど言った環境も人が集まっていないということはそういうことじゃないですか。

子供を預かる施設として、しっかり預かれる体制をとってなければ、子供さんたちを預けてくださいと頼んでも親御さんは預けに来ないと思います。

実際に子供たちを鷹栖の保育園に預けに来ているわけですから、そのことをしっかりとお願いしたいと思います。

これ以上言ったら町長の顔色が変わるかもしれませんからやめます。

ただですね、町長一回私も一日時間空けます。

町長も忙しいでしょうけれども時間を空けて、担当課長と3人で朝7時から晩の18時半まで保育の環境も含めて子供たちを預かりにいきましょう。

宜しくお願い致します。

### 2点目の質問をさせていただきます。

本町の保育所においては完全給食が提供されており、大変望ましい食育環境であると思っております。

農業が基幹産業である本町の特性を生かして、お米や野菜などの地場産品を使用することは当然のことではありますが、子供たちも直接さまざまな経験を通じて食に関する知識を習得し、将来的に健康な生活を送れる人を育てる、そういうことも非常に大事であると考えますけれども、保育園での食育の取組みについてお考えをお伺い致します。

## 谷町長

2点目の食育についてお答えをいたします。

保育園の給食においても、学校給食同様に鷹栖町産の農産物を食材にした、鷹栖町産給食の日を年2回設けており、お米については鷹栖町産ななつぼしを通年で使用させていただいております。

また、鷹栖町産給食の日以外でも、栄養士の鷹栖町産食材に対する思いもあり、野菜については今年度から町内の農業者が生産したものや、あったかファームで生産されたものを今まで以上に多く取り入れるように努力しております。

そのほかに、オオカミの桃や鷹栖牛・鷹栖の味噌なども使用しており、ほぼ毎日何かしらの鷹栖町産の食材が給食に取り入れられています。

また毎年、トマトやジャガイモなどを先生方と園児で作付し、収穫したものを給食に活用するなど、食べるだけではなく作物がどのように成長していくのかを学び、自分たちで育てたものを食すという食育も行っております。

健康福祉課栄養士も4半期ごとに食育の時間を設け箸の持ち方や食事のマナーなどを学ぶ食育の話や、自分たちでおにぎりやうどんをつくるなどの調理体験などを行っています。

このような取組みも今後継続し、幼少期から食に関する知識を養うことを大切にしていきたいと考えております。

## 青野敏

お米を初めとして様々な食材を使用しているというのは、私も確認をしております。

これは決まり事をつくって何かをしないとだめだということではないのですけれども、食育基本法の中に食育推進計画というのがあります。

この中には保育所における食育に関する指針というのがありまして、食育推進計画を全道 179 市町村の中 122 市町村が計画を立てています。

これはそれぞれ、1年のところもあれば3年・4年・5年のところの計画であるのですけれども、鷹栖町も計画を立てて名簿には入っています。

ただ、鷹栖町の計画は農業ビジョン2期目の中の、学校給食へお米・野菜・牛肉などの活用による食育・農育そんなところの言葉だけです。

ほかの計画を見ますと細かい計画を立てているところもたくさんあり、近場でいけば東神楽町ではすぐ前向きな取組みをされています。

乳幼児の食育推進ということでは、食育の定着、食習慣のリズム等を保育園と幼稚園で連携して推進するという、そんなことも含めて細かく計画されています。

当町もスポット的にお米や野菜を使っていますが、この保育園の食材の野菜関係については、1カ月の献立をつくってその中で必要なものを調達するというように聞いているのですけれども、但し、なかなか農業者同友会や農業者がその時間になかなか運搬ができないと聞いています。

今は町職員の方が運んでいるようなことも確認をしています。

それはそれでいいことでしょうけれども、ぜひその辺も農業者・団体の方々と行政としてしっかり農業者の方々に協力をお願いして行う事は出来ないでしょうか。

先ほど言った食育の関係の計画及び食材を保育園の中で取り入れる体制、その辺の考え方はどうですか。

## 谷町長

最初の答弁にもございましたけれども、今年から農業者の方に地元で採れた野菜を随分提供していただいたり、あったかファームからの野菜というのも栄養士さんと相談をして、どういう品目がいいのかというのも相談をしながら作付をしている状況でございます。

今年度についてもそういうような打合せをしながら、来年度に向けて計画を立てることを考えてございますし、今年度非常にうまくいったと思いますので、それらのことはこれからも継続してより鷹栖町産品が使えるような努力も農業者の皆様方にも協力をしていただく方向で考えていきたいと思っております。

## 青野敏

前段でも話したように鷹栖町は農業の町ですから、いろんな食材を使うのは当たり前のことだと思います。

ですからそれを是非、町として小学校・中学校の給食には定期的に入っていますので、農業者との契約をしながら保育園にも計画的に鷹栖町農産品が使えるような形にしていきたいと思っておりますがどうでしょうか。

## 谷町長

これは青野議員、知らないのかもしれないのですけれども。

給食に出すということはそれだけの量のロットが必要であり、それを作って行くことによってその後の売り先ですとか、全部ずっと給食に出して提供できればよいのですけれども、そういうことでもないので、農業者の方とはですね随分前からそういうような話をさせてもらっています。

ですからスポット的に入れる品目作りやすいのですけれども、そうではない作物については非常に手が掛かって難しいですとか、小学校・中学校になりますと人数が多いですから、なかなかそういうところは難しいという場面もあります。

ただ、保育園については人数が少ないので比較的それは小学校・中学校に比べるとやりやすいという

環境ではあるんですね。

ですから、今年からそういうようなことで、一農業者の方とお話をして作物を提供していただいているというような状況になってございますので、青野議員がおっしゃるとおり保育園については、可能性が広がりましたので、これから今年の実績もございましてそれを含めて、また確実に成果を伸ばしていきたいというふうに考えてございます。

#### 青野敏

何か、知らないような言い方をされましたけれども、知らなくはないのですよ。

先ほど言った小学校・中学校は、今言ったそのキャパが大きいですから、そのときに入れられるというのはそんなことは重々分かっております。

保育園は、先ほど言いましたが1カ月の献立表を計画しておりますので、どういう食事を提供するかによって食材が分かるわけですから、その中で鷹栖町産を出せるものについては、この中でできるだけ調達をするという、そんなことだと思うのですね。

それを今は、先ほど町長がおっしゃった一農業者の方と契約をして入れてもらうようにしているが、時間が合わないので農業者が搬入できない状況です。

ですから役場の職員が取りに行き運んでいる。

町長のほうが知らないのではないですかね。

そういう状態ですから確りとした体制の中でやれるような形にしていかななくてはだめではないですかということです。

職員が協力してやると事は分からないわけではないのですが、今後も裾野が広がっていかないのではないのでしょうか。

#### 谷町長

はい。

もちろんそう考えております。

#### 青野敏

宜しくお願ひ致します。

それでは次の質問に移ります。

本町では、子育て世代の交流や子育て相談・乳幼児等の親子が楽しく触れ合う場として、支援センター「ぼこ・あ・ぼこ」が開設をして、子育て世代とのかかわりなど積極的に取り組んでおります。

子供たちにとっても、よりよい保育環境の整備と保育園は単に子供を預かる施設ではなくて、子育て世帯を中心とした、コミュニティーネットの拠点としての役割を担うことも重要ではないかと思いますが、町長のお考えをお伺ひ致します。

#### 谷町長

3点目の保護者との協働の関係でございます。

将来を担う子供たちは地域の宝であり、保護者だけではなく行政も地域も一緒になって見守り、育んでいく必要があると思います。

現状では保護者の参加協力により、園内外の清掃や親子行事の実施、夕涼み会の開催のほか、地域や団体との交流として大成老人会の交流や老人会の長生き感謝祭、スポーツ大会、また、鷹栖・北野地区文化祭、北野地区の公民館文化祭などにも参加しております。

議員のおっしゃるとおり保護者、行政、地域が一体となって子供たちを育むことの重要性は、私も同感であります。

ただし、保育園をコミュニティーネットの拠点施設としていくことや、そういった組織を創設することは、現在のところ考えてはおりません。

## 青野敏

必要性については町長も認めていただいていると思います。

先ほど話したように今後の課題だとしても、町長が考えている「子育て世代包括支援センター」も今準備をしている最中だと聞いていますから、出来上がった段階でそれぞれ職員の配置により色々な取り組みが出来るように考えていただければと思います。

早々にこの事をどうしてもということではないのですが、保護者・保育所・行政・地域全体で子供たちを見守り育てるという取り組みをしっかりと組み立てていくことが、より子供たちを安全に預かれる環境になるかなと思いますし、またそのことが、子育て世代の方々にとって必要なことであると思います。

町長の答弁では今は考えていませんという話だったのですけれども、今後に向けて全体について町長のお考えはどうでしょう。

## 谷町長

当初の質問で青野議員のおっしゃったとうり、今、保育園では職員の数が若干少ないのではないかというお話もありましたので、これ以上に過度に負担をかけてですね、こういうようなことをできる体制では今はないと思っています。

しかしですね、今年の執行方針でも述べさせていただきましたけれども、子育て支援の包括支援センターを新年度から開設するというので、これについては妊婦さんから18歳の子供までを対象にして、子育て支援をしていこうという考え方でおります。

今までですと、保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校、とそれぞれ縦割りではないのですけれども、うまく連携がいかないところもありました。

18歳を超えてからも鷹栖町民で困り感のあるお子さんもいらっしゃるでしょうし、そういう方も鷹栖町で見守っていけるような体制をしっかりと取りたいということで、子育て支援包括支援センターを設けて、学校が変わってからもちゃんとこちらのほうでも相談を受けながら、家庭も子供も一緒に伴走型の支援をしていこうという考え方を持っていますので、保育園を拠点の一つというのは理想的なのかもしれませんが、現在のところは先ほどお話ししました子育て包括支援センターのほうで、それを担っていこうという考え方でございます。

## 青野敏

是非、そのことが実現をしていただきたいと思っています。

それと、今の鷹栖町の子ども子育て支援計画の中にも「子ども子育て会議」というのを設置していますよね。

これがまず機能しているのかどうか。

機能しているのだとすれば、この中で今話したようないろんなその体制を取る下準備、そんなことも含めてこの会議の中で、今の段階からしておいたほうが良いと思うのですけれども、現状も含めてこの会議の中で今後の体制を組むための準備を進めるという考え方はどうでしょうか。

## 健康福祉課長

今、御質問ありました会議ですが、すいません、今年度についてはまだ開催はしていないということになっています。

## 青野敏

どちらにしても、保育園の環境だけではなくて、鷹栖町全体で子供たちを預かるというしっかりした考えを町長が発信をして、それぞれの担当課が協力して子供たちを安全で安心して、親御さんから預かるそんな体制と子供たちを育てる環境を是非、町長の今後大きな政策にしてもらいたいと思いますけどどうでしょうか。



## 谷町長

子供というのは本当に地域の宝ですし、先ほど上西教育長からもお話がありましたとおり、その子供たちをこのふるさと鷹栖でどのように育てていくのかというのは、家庭もそうでしょうし、学校・地域、そして行政、全ての人がかかわりを持ちながら育てていくというのが一番の理想だというふうに思っています。

なおかつ、働く人の環境をしっかり守って、働く人が生き生きとした職場で子供たちを育てるというのが一番良いことですから、それに向かって邁進してまいりたいと思いますので、御協力をよろしくお願いします。

## 青野敏

最後です。

今、町長本当に良いことおっしゃっていただきました。

子供たちを預かるというのは、今、女性の方々が働くことをそういうところを行政としても支えるということだと思います。

町長も執行方針の中にも働く親をしっかり支えるということが出ていると思うのですが、そんなことも含めながら、そういう環境を今後ともしっかりと整えていただきたいと思います。

宜しく願い致します。

終わります。